

指定校番号	29025	学級活動	児童会	○	クラブ活動	学校行事	小学校用
-------	-------	------	-----	---	-------	------	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校長	坂田 邦彦	生徒指導主事	丸山 信宏
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『代表委員会の活性化』

取組のねらい『キーワード リーダーの育成と風土づくり』

- 自伸会活動（児童会活動）を通して、自主的、実践的な態度を育てる。
- よりよい学校にしていくために、課題解決に向けた取組を実践することを通して、成就感や達成感を感じさせ、リーダーの育成を図る。
- 児童自身のもてる力を発揮させ、よりよい学校にしていこうとする風土を育てる。



身に付けさせたい資質・能力

○課題をとらえ解決しようとする力

これまでの生活や体験をもとにして、だれもが安心して過ごせる学校にするためには何ができるのか、課題を設定し追究している。

○主体性

自伸会目標の達成に向けて積極的に取り組み、次の目標達成に向けた意欲を高めている。

取組の具体的内容『キーワード 児童によるよりよい学校づくり』

- 毎月の委員会活動の時間をはじめとして、執行部会（児童 8 人で構成）を行い、自伸会月目標を達成するための具体的な方法を話し合う。
- 執行部会で話し合ったことを、2～6年生の学級代表委員が参加する代表委員会で提起する。（1年生については、執行部の児童が各学級に行って説明する。）
- 目標達成に向けて学級ごとに点検活動等を行い、その結果を翌月の代表委員会で報告する。
- 執行部から全学級で話し合ってもらいたいことを提起したり、各学級から意見や要望を出したりする。

課題提起：「安心して過ごせない」

- ・本当に悲しい。どうしてするのか？
- ・落書きされたら困る。
- ・自分がいやなことをされたらどうか、考えてほしい。



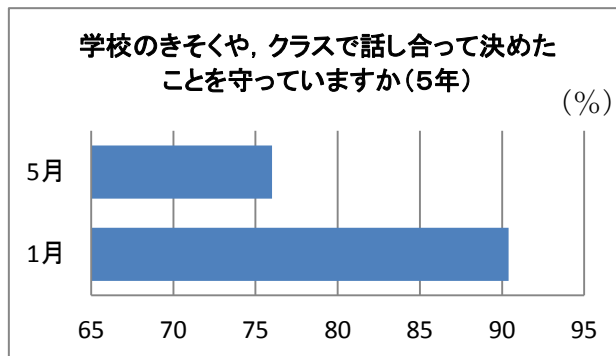
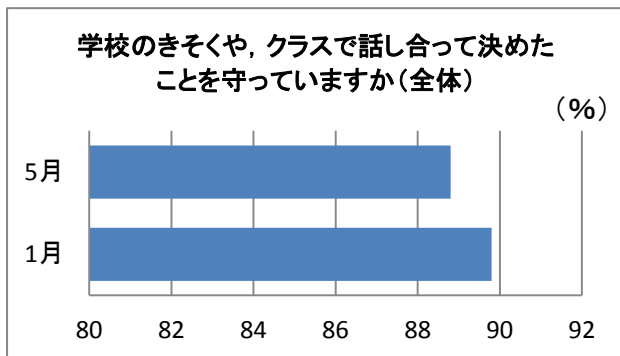
取組の課題・創意工夫『キーワード 学年独自の取組』

- 毎月の自伸会目標達成に取り組むだけでなく、学年独自の目標も設定して、学年全体の規範意識を高めようとする取組も行っている。
- 代表委員会を活性化させるためには、自伸会執行部の児童が「話し合いをリードし、まとめていく力」が不可欠である。そのため、低学年の段階から学級活動等における話し合いにおいて、必要なスキルを身に付けさせておく必要がある。

今週の目標：大きな声であいさつをする。					
入室「おはようございます。」 退室「さようなら。」					
目標100%					
月	火	水	木	金	結果
(19日)	(20日)	(21日)	(22日)	(23日)	
20	25	24	21	22	92%
24	25	24	24	24	
★必ず100%達成を!★					

取組の成果（効果）『キーワード 規範意識の高まり』

○総合質問紙調査（i-check）において、「学校のきそくや、クラスで話し合って決めたことを守っていますか」という質問項目の肯定値が、5月と1月を比較すると全体で1ポイント高まっている。特に、5年生の肯定値が10ポイント以上向上している。高学年となり、「来年度は自分たちがリーダーになるんだ」という意欲が高まったものと思われる。



今後の展開『キーワード 各委員会の参画』

○本校では、美化、保健・給食、環境、広報、図書、放送、運動、ベルマークの各委員会が活動している。今後は各委員会の委員長が代表委員会に参加することにより、活動する上で困っていることなどを呼びかける場を設けていきたい。また、各委員会の活動内容と自伸会目標を関連付けて、自伸会執行部とともに目標達成に向けた具体的な方法話し合わせ提起させるなど、活動の幅を広げていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 「自分のこと」としてとらえさせる』

○校内でさまざまなトラブルや困ったことがあると、教職員がその対応にあたることは当然のことである。しかしながら、児童自身にも「自分たちの学校をよりよくしたい」「安心して楽しい学校生活を送りたい」という意識をもたせることも重要である。そのためには、どの児童にも自分のこととしてとらえさせるために、学級や全体での話し合い活動を充実させていきたい。

